



がくじ



摂南大学図書館報

No. 54

1998.6

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

一学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずやー

*題字は王羲之の書による

『本』の運命

国際言語文化学部 教授 依田 千百子



パーソナル・コンピューターの登場によって、本の文化に物心両面で大きな変化がおとずれようとしている。それゆえの恐れや不安が私にもある。フランスの歴史学者、ロジェ・シャルチエはその著『読書の文化史』の中で次のように述べている。

「テキストの伝達と読みが十世紀も前から（西洋では巻物が放棄され綴じ本が普及した紀元二・三世紀から、中国では、巻物から折り本および綴じ本へ移行した八世紀から）書物によって取られて来た形式を放棄して、固有の構造と可能性を有するある別の媒体、すなわちスクリーンを見出そうとしている。このような変遷がまさしくわれわれの将来であるならば、それは——はじめて全地球規模で——テキスト、それを読ませる媒体と、それを読むこととの関係のある新しい配置を創始することになるだろう。」

文中の「ある別の媒体、すなわちスクリーン」とは文字表示のためのスクリーン、即ちコンピューターのディスプレイ画面をさしている。コンピューターはまさに千七百年前の綴じ本の登場以来の大変化を、本の歴史にもたらそうとしている。

実際、綴じる必要のない「スクリーンで読む本」が出現している。では従来の「印刷された複数の紙を綴じた本」の今後の運命はどうなるのか？そこに生じて来るのは勝ち負けではなく、異なった二つのタイプの本の間の「棲み分け」の問題であろう。辞書や百科事典、データ集などの本は真っ先に電子本化され、視覚的な要素の強い、元来音や動画へのあこがれを抱いて来たジャンルの雑誌類がこれに続く。そして通常の本は紙の本と電子本に分化してゆくのであろう。活字本と比較して電子本の特徴は「対話的」であることだ。電子本は文字の大きさや書体を変えることも思いのままだし、目が疲れたら音声に切り換えることも可能。機械に弱い私でさえ大いに楽しいし、その将来に強い関心を持っている。他方、活字本もこれまで通り確実に生き延びてゆくだろう。先日、恩師から立派なA5判・上製本・化粧箱入りの『著作集』を戴いた。座右の書として生涯大切にするつもりである。

～ 目 次 ～

『本』の運命（依田千百子）……………1
冬虫夏草の春秋（藤多哲朗）……………2, 3
「フマーニオール・コーナー」のすすめ（3）……………4, 5
（頭井洋・波田凱夫・佐藤正志・稲田昭・富尾武弘）
図書館利用統計（1997年度）……………6, 7

特色ある新着資料……………8
『男はつらいよ』『朝日百科・植物の世界』
新入生ライブラリーツアーを実施……………8
前期休日開館の日程……………8
図書館からのお願い……………8

としよかんミニレクチャー <第30回>

冬虫夏草の春秋

摂南大学薬学部 教授 藤 多 哲 朗



古代中国では、日・春・南・昼・夏・男は陽とし、月・秋・北・夜・冬・女は陰とする二種の気と、木・火・土・金・水の五つの元素（五行）からこの宇宙の万物は成り立ち、これらの力の大小、強弱によって人の運命・政治を含め万物が変り、占うことができる、すなわち陰陽五行説があった。二千年の歴史をもつ漢方医学も陰陽五行説に大きく影響されている。漢方医学は人の体の状態の診断に判断基準として二次元の陰・陽（x軸）と虚・実（y軸）を用い、その交点の0点にある状態、すなわち陰・陽・虚・実の平衡のとれた状態を良好な健康としている。それゆえ、漢方医は、それらが偏った状態にある病人を0点に近づけるように薬を処方する。したがって、陰と陽の要素が一つの薬の中に包含され、それらが服用する人の体調に応じて0点に近づける作用をもつとすれば、この上のない妙薬となる。冬虫夏草（とうちゅうかそう）（写真1）はそれに相当する。冬虫夏草は冬の間は昆虫で過ごし、夏になるとそれが草に変化するとみなされ、この名がついている。動くことのできない草は「陰」、動くことのできる虫は「陽」を示している。また、アジア大陸の奥地、ヒマラヤ山脈に近い標高3000mから4000mの高地でのみ採取できる貴重なものであることから、王侯の秘薬といわれていた。



写真1 市販冬虫夏草 コウモリガ科の幼虫からキノコが生え、先端は孢子を有する子座（子実体：キノコの傘の部分に相当する）を形成している。

冬虫夏草が中国に紹介された時代は、二千年の長い歴史を持つ中国医学のなかで新しい。すなわち、冬虫夏草は中国・清朝時代の呉儀洛（1757年）の「本草從新」に初めて記載された。菌類学者の小林義雄博士は18世紀の初め頃に中国で知られたと推定している。ヨーロッパには、小林博士の「日本・中国菌類歴史と民俗学（廣川書店、1983年）」を参考にすると、清朝時代に北京で永住した神父が中国産の薬物を1723年にフランスのアカデミーに送り、1726年にヨーロッパの学会に紹介された。また、日本には1728年に中国から渡ってきている。飢饉に備えて、サツマイモ（甘藷）を普及させた蘭学者で、幕府書物奉行の青木昆陽（甘藷先生、1768年）も冬虫夏草を見て「誠に万国の生物はかるべからず」と記している。スエーデン人の植物学者・医学者で蘭医として来日（1770-1779年）したツンベルグやドイツ人医学者・博物学者でオランダ商館の医師シーボルト（1826年）も日本で冬虫夏草を見ている。シーボルトの最初の来日の時は、20歳代であり「植物と昆虫の中間物なり」と述べている。彼は長崎で、診療所を兼ねた鳴滝塾を設け高野長英はじめ多数の蘭学者を養成した。その2年後、帰国の際、荷物の中に国禁の地図が見付けられ罪に問われた。1859年、彼は再び来日、幕府の外事顧問となったことは良く知られるところである。1843年、イギリスの菌類分類学者パークリー（Berkeley）は冬虫夏草の草部は、植物ではなくて、カビやキノコの類の菌体であることを発表した。後ほど、その菌がセミに寄生するセミタケと同属であることを菌学者サツカードが示した。現在、菌の学名は *Cordyceps sinensis* (BERKLEY) SACCACRDO と称せられている。もともと、冬虫夏草はチベットの民族薬であったようである。仏教の影響を大きく受けたチベット医学教科書「四部医典」（400年頃）には記されていない。チベットの薬物書のなかで初めて記録されたのは「甘露宝庫」（1400年頃）である（久保道德・近畿大学教授著「冬虫夏草・秘密とそのパワー」（保育社、平成8年））。それゆえ、冬虫夏草は漢民族とチベット民族との接触が盛んとなった清の時代に中国にもたらされ、中国を経てヨーロッパ、日本で知られるようになったのであろう。

薬用の冬虫夏草は、冬虫夏草菌、フコムシナツクサタケ *C. sinensis* が蛾の一種、コウモリガ科の幼虫に寄生したものである。冬虫夏草菌は土中にある幼虫の体中で菌糸体を増やし続け、ついには子座と呼ばれる子実体（有性胞子をもつキノコに相当する部分）を形成し、チベット高原では6月上旬土中からツクシのような頭を出す。これが植物とみなされたのであろう。冬虫夏草は全長9~12cmで、虫体は第3令のカイコのような形をしている（写真1）。主産地は、チベット、四川、青海、貴州、雲南、甘粛である。ネパールのヒマラヤ山地にも産する。日本にはこの種の冬虫夏草は自生していない。

1998年3月、摂大・薬学部で講演したネパールのチベット伝統医師ツァムパ・ンガワン博士は『冬虫夏草は宮廷で使われる貴重な薬であるため、ネパールでは国外輸出禁止で、最近密輸の発覚した人が刑に服している』と語っていた。また、コウモリガ科の幼虫は、伊吹山に生えているイブキトラノオに類似のタデ科植物・珠芽蓼の根を食べている。私の部屋で、博士はイブキトラノオの写真を見て『この植物が自分の住んでいる地域に生えており、その所で冬虫夏草を採集する』と懐かしそうであった。

冬虫夏草の薬効を呉儀洛は「甘平。補肺。益腎。止血化痰。労咳を治す。」と記述している。久保道德教授の著書と横浜市立大学医学部・山本徳子助教授・原作、藤原りょうじ・画「漢方のルーツ・まんが中国医学の歴史」（医道の日本社、平成4年）を参考に、独断と偏見を加えてその内容を解説してみよう。五行説は、宇宙の万物を五つに分けている。味は五味（酸・苦・甘・辛・鹹）、臓器は五臓（肝・心・脾・肺・腎）である。これらは五元素（木〈陽〉・火〈陽〉・土〈中性〉・金〈陰〉・水〈陰〉）に属している（図）。味の「甘」は「土」に属し、それに属する薬や食物は「脾」に入ると定義している。病気は「木」に属する「肝」から始まり、「心」「脾」「肺」を経て「腎」に至る。それゆえ、冬虫夏草は「脾」に入って、「脾」の病を治療し、次にやってくる「肺」を予防するように働き、更にその次の「腎」を健康にする。「平」は、陰でもなければ陽でもない状態に適用できる薬の性質の意味で、病で発熱している時（陽）でも冷えて衰弱している時（陰）どちらにも使えることを示している。漢方医学で用いられている臓器の名称は、現在の解剖学の名称とは異なり、ホルモン系、神経系、免疫系をも含み、筆者の知識では説明することはできないが、何となく判るような気がする。文字の国、中国人がこれだけの意味するところを十数文字で示していることには感心させられる。

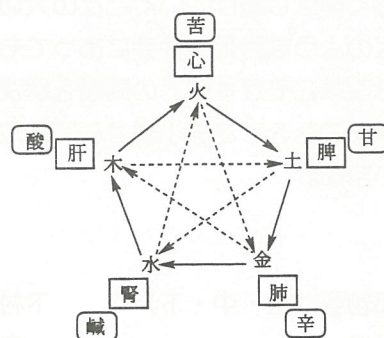
冬虫夏草の化学成分と薬効、生理作用との関係は、ま



写真2 蟬花 セミの幼虫にセミタケが寄生したもの。

だ明確な証明が得られていない。冬虫夏草そのもの、あるいは冬虫夏草の培養菌糸体、培養液について生理活性が研究され、腫瘍細胞の生長阻害、免疫機能異常の改善、細胞性免疫に対する抑制作用、腎機能の早期回復、マウスの毛の再生作用などが報告されている。腎機能の早期回復などは呉儀洛の記述と一致している。

現在、日本で一般的に冬虫夏草と呼ばれているものは、昆虫（セミ、ハチ、アリや蠅その他多種類の昆虫）と寄生菌の子実体の合体したものである。古来より中国では、これらを虫草とよび、菌がセミの幼虫に寄生して生じた「蟬花」（せんか）（写真2）が小児の夜泣きなどに使用されてきた。菌類からペニシリンなど抗生物質が発見されているが、数少ない微生物由来の漢方薬から有効な新規医薬品は見付かっていない。生理活性測定法の進歩した今日、再び古きを訪ね、これらの中から、臓器移植に必要な免疫拒絶反応を抑える新しい医薬品や難病に有効な医薬品の開発が期待されている。



a → b : 相生（そうしょう）、aからbが生じる。

c - - - -> d : 相剋（そうこく）、互いに争いcがdに勝つ。

□ : 五臓 ○ : 五味

図 五行の相関 相生：木が燃えて火、火が灰になって土、土の中で金を生じ、金属に水滴ができ、水により木が育まれる。相剋：木は土から栄養を奪い、土は水を吸収する。水は火を消し、火は金属を溶かす。金属は木を切る。

「フマーニオール・コーナー」のすすめ (3)

「フマーニオール・コーナー」は、より豊かで暖かい人間性をもつ若人がこの学窓から巣立っていくことを願って設けられたものです。

同コーナーの図書の選書は、各学部先生方をお願いしました。そこで、選書にあられた先生に、どのような観点から選ばれたのか、それらを読むことによって学生諸君に何を読み取ってほしいかを語っていただきました。

人として生きる大切さ

工学部 教授 ずい 頭井 ひろし 洋

下村湖人著の「次郎物語」は、母乳のない母の子に生まれ、乳母のもとで幼年期をすごした主人公次郎が、大正から昭和という日本の風土の中で、少年期より青年期まで成長していく過程を描いた作品です。この小説は、多くの日本人に愛読され感銘を与えてきました。その理由は、次郎という少年を通して、人として生きるということの意味と目的を、私達に問い掛け、考えさせてくれるからだと思います。私達は、生まれ育った境遇や環境から否応無しに大きな影響を受けるわけですが、その境遇や環境の出発点を自ら選びとることはできません。その反面、自らの意志で決めることのできる私達自身の生き方や行為が周囲の人達や環境にも大きな影響を及ぼしています。どのような境遇や環境にあらうとも、自らの人間としての力を弛む事なく伸ばし続けていくことの大切さと、そして、どのような時代や社会にあっても、地道で漸進的な改革こそがすべての問題を解決していく要諦であることを、この小説から読み取って欲しいと思います。

〈推薦図書〉

- | | |
|---------------|-------|
| ① 次郎物語（上・中・下） | 下村湖人著 |
| ② 孔子伝 | 白川静著 |



現代に生きる古典

工学部 教授 なみ た 波田 よし お 凱夫

すぐれた文学作品は読む人の人生を豊かにしてくれる。しかし、いざそれらを読もうとしても難解なため途中で投げ出した経験のある人も多いであろう。そんな時に良い解説書などで予備知識を得ると大きな助けとなる。文豪モーームが「世界の十大小説」で選んだ作品はいずれも古今の名著で、それらの成立の背景や読み方のポイントがわかり易く語られている。著者自身がすぐれた作家であるだけに、思わずその語りに魅せられ、読後目から鱗の落ちる思いがする。「現代に生きるファウスト」は、170 年も前のゲーテの戯曲がなぜ今なお最高の文学作品としての価値を失わないかを、現代の世相に照らしながら説く。すぐれた文学は何百年も後の世界を予言し、そして永遠の命を保つものであることの秘密をこれらの解説書から知れば、あらためて原典に挑戦してその中味を興味深く理解し、自らの心の糧とすることができよう。幅広い読書の習慣は、あたかも漢方薬が即効性はないが着実に健康を増進するように、長い時間をかけて読者の人格形成に役立つものである。

〈推薦図書〉

- | | |
|------------------|----------|
| ① 現代に生きるファウスト | 小西悟著 |
| ② 平家物語 | 杉本秀太郎著 |
| ③ コンスタンティノープルを歩く | 尚樹啓太郎著 |
| ④ 迷路 | 野上弥生子著 |
| ⑤ 世界の十大小説 | S. モーーム著 |
| ⑥ アインシュタイン伝 | 矢野健太郎著 |

人生にイエス

経営情報学部 助教授 さとう まさし
佐藤 正志

愛する者を失ったとき、仕事や事業に失敗したとき、人間関係がうまくいかなかったとき。それまで自分が依って立つ何らかの日常性や安定性、あるいは自信といったものを喪失したとき、それらを取り戻す将来への展望を描けなくなった人間は、時として深い絶望の淵に立つことがある。しかし、それは気を取り直し、新たな挑戦や歩みを始めることで、そしてなによりも時間が癒してくれる。

しかし、あのナチズムという凶暴で反人間的な政治権力によって、強制収容所・ガス室へとおくられた罪なき人々にとって、極限状況のなかで何が絶望からの癒しとなったのだろうか。不条理な生の中断を余儀なくされ、死の恐怖に投げ込まれた人々に、神は存在したのであろうか。

強制収容所の体験を綴った『夜と霧』の作者 فرانクルは、しかしそれでも人生それ自体に意味があり、それゆえどんな状況でもイエスということができるといふ。ニヒリズムを越え、一回性、唯一性の人生を生きる意味を力強く語り、訴えかけてくる。生きること、生きていくことの意味を考えるために、ぜひとも一読していただきたい。

〈推薦図書〉

- ① それでも人生にイエスという フランクル.V 著

命永遠にして——親から子へ——

薬学部 助教授 いなだ あきら
稲田 昭

「禍福は糾える縄の如し」という諺に言い表わされる様に人の一生には、多くの楽しい事もある反面、絶望感や挫折感を味わう事も避けて通る事のできない現実です。そんな時、これらの苦しみから逃避するのではなく、共に苦しみを共有してくれる人が身近にいれば、きっと大きな心の支えになるかと思います。「ビジネスマンの父より娘への 25 通の手紙」は、さまざまな人生のハードルに自分の娘が直面した時、父親から娘へのアドバイスやサポートを示した書簡集です。自分の娘

を一人の人間として尊重しながら、彼女の苦しみを共有し娘の人生をエスコートしていこうとする父親の強い人間愛が文章の端々に感じられます。

「氷のゆりかご」は、アザラシの成長を記録した写真集です。厳しい環境の中、親の愛情に育まれアザラシの子供が生長していく姿が示されています。ちょっと心が疲れた時、手にとって御覧下さい。理屈抜きに愛らしい姿がきっと心のリフレッシュになるはずです。

〈推薦図書〉

- ① ビジネスマンの父より娘への 25 通の手紙
ウード. K 著
② 氷のゆりかご
岩合光昭著

アジアに眼を

国際言語文化学部 助教授 とみ お たけひろ
富尾 武弘

日本文化とは何かを問う議論や研究報告は限りなくあるが、様々な研究分野の第一人者達が討論に参加した討論集が「照葉樹林文化」である。既に常識化したものもあるが、日本文化の位置・意味を知る上で欠かせない書である。文化伝播ルートでは、「海の道」には言及されていない、いわば、「雲南文化論」でもあるが、東南アジア諸地域研究の成果が大きく貢献したことも新境地を開いた文化論と言える。

歴史学を学ぼうとする者は「歴史観」というものも求める必要がある。自らの「歴史観」を堅持し、書き上げられたものが司馬遷「史記」である。人類の歴史を振り返り、社会が人間がよくなって来ているのかを歴史家は問い続けねばならない。

金子光晴旅行記三部作は、私自身感銘を受けた書物である。例えば茫漠としたマレー・スマトラ世界をこの様に表現できるのかという驚き。詩人というものは、やはり特別な感性に恵まれ、磨いているものだと思い知らされる書である。

〈推薦図書〉

- ① 司馬遷 —史記の世界— 武田泰淳著
② 照葉樹林文化 上山春平著
③ 続照葉樹林文化 上山春平著
④ 西ひがし 金子光晴著
⑤ どくろ杯 金子光晴著
⑥ ねむれ巴里 金子光晴著

図書館利用統計(1997年度)

図書館では、利用者の動向を把握し、図書館運営の参考にするため、毎年利用状況を集計し、各種統計を作成しています。

ここでは、主として学生利用者に関するデータを紹介します。

1. 利用状況総括データ

<総括表>

() の数字は前年度比

館 項目	本 館	分 館	計
開館日数	268 日 (+ 3)	271 日 (± 0)	—
入館者数	232,068 (-12,869)	178,334 (-7,469)	410,402 (-20,338)
貸出者数 (学生)	19,084 (-1,837)	3,416 (+236)	22,500 (-1,601)
貸出冊数 (学生)	38,351 (-3,516)	6,141 (+378)	44,492 (-3,138)

(注) 本館入館者数には閲覧室(3F)利用者は含まれていません。

開館日数が本館で増加しているのは、97年度に定期試験期の休日開館を試行的に実施したためです。本館の場合、休日開館は前・後期合わせて5日間実施しましたが、台風による臨時休館などがあり、前年度より3日増加という結果になりました。分館でも、休日開館を実施しましたが、8月に書架耐震工事のため臨時休館したので開館日数の増減はありませんでした。

入館者数は、本館で5.3%、分館で4%、全体で4.7%減少しました。これで2年連続の減少になりました。貸出者数は本館で8.8%減少、分館で7.4%増加、貸出冊数は本館で8.4%減少、分館で6.6%増加しました。本館は、開館日数が3日増えたにもかかわらず、どの数字も減少しています。その大きな理由の一つとして、薬学部1年次生が97年4月から枚方学舎に移ったことが挙げられます。

2. 所属別貸出状況

所属別貸出状況では、大学院生は増えていますが、学部生はどの学部も減少しています。

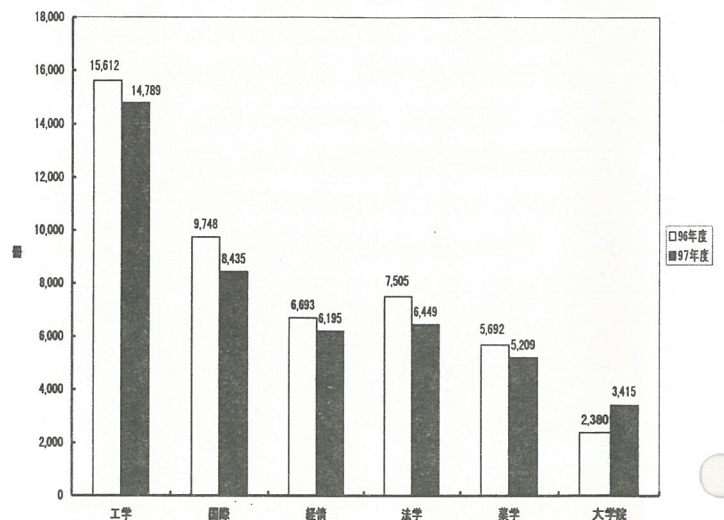
一人あたり貸出冊数では、学部の最高が国際の7.6冊、最低が経情の3.3冊、学部の平均が5.4冊となりました。大学院生は20.3冊で、前年より

1.6ポイント増加しましたが、全体平均は5.7冊で残念ながら前年より数字が落ちています。

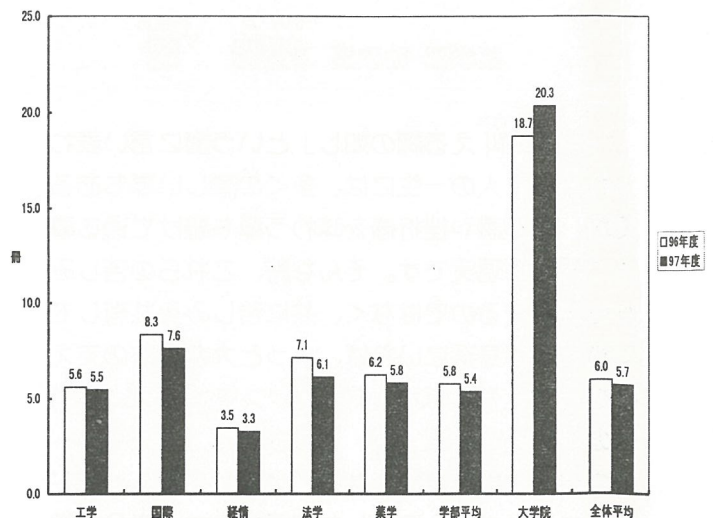
ちなみに、全国の国公立大平均は9.0冊、同私大平均は7.2冊、関西大手私大平均は9.1冊でした。

(注：他大学等の数値は「日本の図書館'97」から独自に算出)

学部別貸出冊数



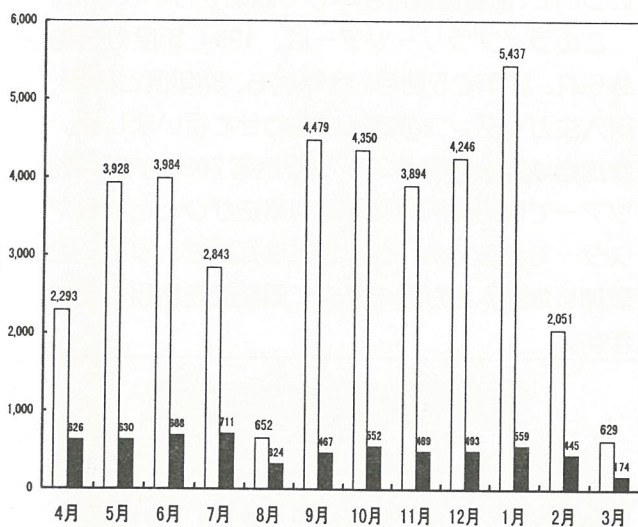
学部別1人当たり貸出冊数



3. 月別貸出冊数

例年どおり、本館は前期試験期の9月から後期試験期の1月までがよく利用されており、分館は年間を通じてコンスタントに利用されています。本・分館とも1月の利用が前年より増加しています。

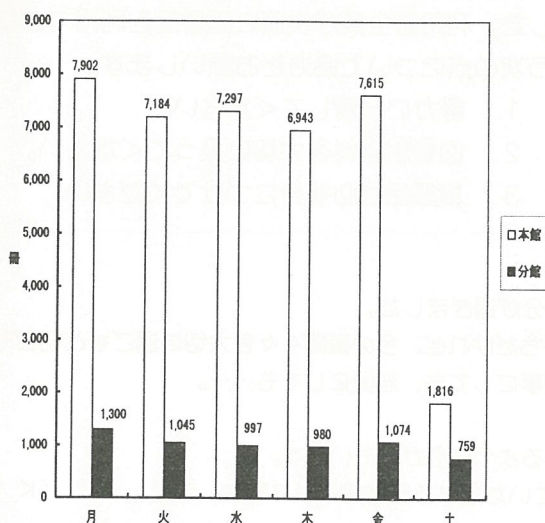
月別貸出冊数



4. 曜日別貸出

本館・分館とも一週間を通じコンスタントに利用されていますが、月曜日と金曜日が特に利用されています。前年度に比べると両館とも、土曜日の利用が伸びています。

曜日別貸出冊数

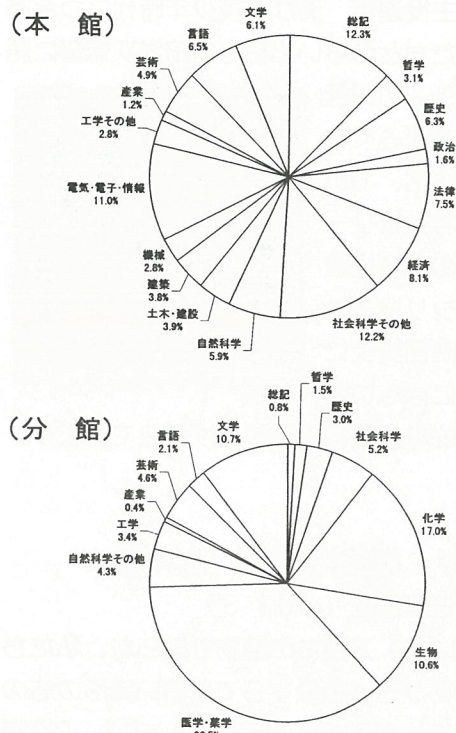


5. 分類別貸出冊数

本館・分館とも利用者の所属学部構成を反映し、ほぼ例年どおりの分類別貸出比率となっていますが、97年4月から薬学部1年生が寝屋川学舎か

ら枚方学舎に移ったことに伴い、分館で、「総記・哲学・歴史」「自然科学その他」「文学・言語・歴史」などが従来より増加しています。

分類別貸出冊数

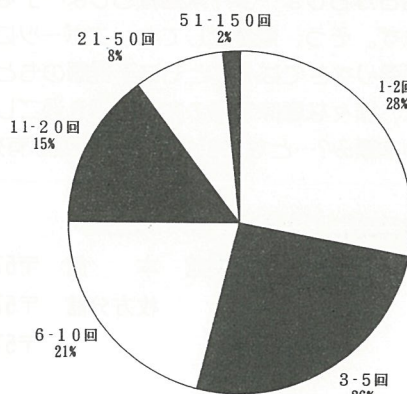


6. 回数別貸出者数

昨年度図書を借りたことのある人は全体の55%、一度も借りたことのない人は45%で、かろうじて借りたことのある人のほうが多いという状況でした。

図書を借りたことのある人のなかで、貸出回数の最も多い記録は本館では148回、分館では98回でした。しかし、これら貸出回数の多い人は例外に属しています。本館・分館とも利用が5回までの人で半数を超えており、貸出回数10回まででほぼ全体の4分の3になります。非常によく図書館を利用しているといえるのは全体の10%程度にすぎません。

回数別貸出者数比率



特色ある新着資料

〈本 館〉

ビデオ『男はつらいよ』全 48 巻

これは、主演渥美 清が不良少年時代につきあったテキ屋たちとの思い出話を山田洋次監督に語ったことから、山田監督がイメージをふくらませ、テレビ化、ついで映画化されたシリーズ。渥美清の人生経験そのものがシリーズに凝縮され、映画史上にもそうザラにはないひとつの典型的な人間像が作りあげられています。

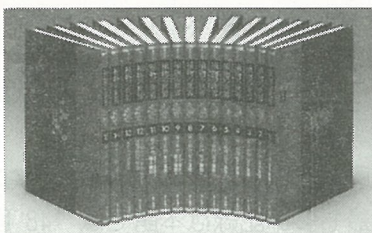


〈分 館〉

朝日百科 植物の世界 全 15 巻

朝日新聞社 (470.8 S)

地球上には 30 万種もの植物が知られ、私たちに身近な植物からは想像すらできない姿形のものや、有用な植物が数多く生育しています。「植物の世界」は、これらの植物を系統的に網羅し、植物の生態、人間との深い関わりなどについて詳しく述べられています。また、写真総点数は 1 万枚にも及び、植物観察の興奮が味わえる美しい写真が所狭しと並んでいます。植物の野生の姿がいきいきと伝わってくる世界最大級のヴィジュアル植物事典です。



新入生対象ライブラリーツアーを実施

図書館(本館)では今年度も、新入生対象のライブラリーツアーを実施しました。実施期間は 4 月 7 日(火)から 10 日(金)までの 4 日間でした。ツアーでは、館内各室の案内の他、配架ルールから検索機の操作方法まで図書館利用の基礎的なノウハウについて、図書館員が引率して説明を行いました。

このライブラリーツアーは、1994 年度から始められ、今年で 5 回目。今年度も、昨年度と同様、新入生ガイダンスの実施にあわせて行いました。参加者は過去最高の 378 人(申込者 703 人)でした。ツアーでは短時間で図書館利用法がひととおりマスターできるため、参加者には好評で、ツアーに参加した新入生がその後よく図書館を利用しています。

前期休日開館日程

図書館では、皆様のご要望に応え、前期期末試験期における休日開館を行います。実施日は、7 月の 12 日(日)、19 日(日)、20 日(祝)の 3 日間で、寝屋川本館、枚方分館共通です。開館時間はいずれも午前 10 時 30 分から午後 4 時 50 分まで。

図書館からのお願い

試験期を控え、利用者の多くなる時期になりました。利用者全員が快適に図書館を利用できるよう次の点について協力をお願いします。

1. 静かに学習してください。
2. 図書館資料を大切に扱ってください。
3. 貴重品は必ず身につけてください。

編集後記

- ・ 1 月行く、2 月逃げる、3 月去る…アツという間に 1 年の半分が過ぎました。よく、「明日からしよ〜」「来週からしよ〜」なんて言いがちだけれど、今の瞬間々々を大切に過ごすと明日も来週もないはず。そう、勉強にしても、スポーツにしても、仕事にしても、恋愛にしても……。
- ただし、頑張りすぎでは心身ともに不健康のもと!!
- 図書館では、様々な意味で幅のある時間を過ごしていただけるように心がけています。
- 困った時の本頼み?…となれますよう、皆様が有効に利用していただける図書館作りに努力します。

(K. M)

摂南大学図書館報「学而」No.54 1998. 6

編集・発行 摂南大学図書館 本 館 〒572-0074 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 TEL. (0720) 39-9112
枚方分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45-1 TEL. (0720) 66-3102
印刷 株式会社清風印刷 〒570-0024 大阪府守口市神木町 7-12-102 TEL. (06) 991-2855